

そして、社会全体を見れば、日本人は、

渡る世間に鬼はない

という世間観をもっている。すなわち、冷たいように見えても、人の情というものはあるものである。このような楽天的な世間観は、日本の自然環境と歴史環境に由来するものと考えられる。

日本は地理的な環境によって、古くから豊かな自然条件に恵まれてきた。周囲を海で囲まれ、気候は海洋性気候であり、温暖、湿潤がその特徴である。このような気候条件は生業にすぐれた条件を与えてきた。恵まれた自然環境のもとで暮らしてきた日本人が自然に対して、自然はそのままが一番美しいとするのは当然のことであり、世間に対しても、世間には悪いことはなく、悪い人はいないと認識するのである。そして、地理的に周囲を海で囲まれ、世界から隔てられている自然の条件によって、日本は異民族による軍事的な侵略、政治的な支配はほとんど受けてきていない。単一民族が一つの島国に居住し、鎖国や長い封建制度によって、社会は比較的安定していた。このことからこの日本人独特の世間観を表わす諺が産み出されてきたのであろう。言うまでもなく、「渡る世間に鬼はない」とは正反対に、

渡る世間は鬼ばかり

という諺もあるが、それは、世間は常に変化しつつあるものであって、よい面だけでなく、悪い面もあるという認識が反映されている。

また、日本には次のような諺もある：

言わぬが花

見ぬが仏聞かぬが花

見ざる聞かざる言わざる

これらの諺から日本人はストレートな伝達をできるだけ避け、腹芸や以心伝心というように非理論的な読みを重要視する志向性がかがわれる。すなわち、日本人の好みの中に「以心伝心」があり、あまり口数多くしゃべるのをよしとしない価値観がある。黙っていても自ら心が通じ理解し合えることが日本人の理想なのである。

以上のほか、日本の諺には、「うそ」に関するものも少なくない。うそは悪い

ものであるが、場合によって方便ともなる。方便とは仏教で衆生を教え導くための手段のことであるが、

うそつきは泥棒の始まり

というように、うそは偽りの最も有用な手段であり、うそをつかない習慣を養わなければ、盗みをする恐れがあるという警告である。その一方で、

うそも方便

とか、

うそは世の宝

というように、うそをつくのはよくないが、物事が円滑に遂行していくためにはうそをつくことも必要であるという、うその機能を説いている。

## 2. 2. 中国人の世間観

一方、中国人は伝統を重んじる国民であるが、伝統主義は保守主義に転化しやすい。中国人は絶えず社会や経済生活に調和を見出そうとし、もつとも安全でかつ持続性のある自己保全の方法を求め、このことによつて、

世情静方見,人情淡始長 (世の中のこととは冷静であつてはじめてわかり、人

情は淡泊であつてはじめて長続きする)

守着大树有柴烧 (大樹のそばを離れなければ、焚く薪に困らない)

与人方便,自己方便 (人への便宜は自分への便宜)

というような諺が産み出されることとなつたのであろう。そして、中国人は長い歴史の中で、社会なるものを見てきた結果、

世情看冷暖,人面逐高低 (世情は冷暖を見、人面は高低を逐う)

のような冷たい世間への感慨や、「世間」と「人情」をどのように把握するのかということについての指針が諺によって示されてきている。また、世の中で生活していくためには、

行要好伴,居要好邻 (旅にはよい伴、住むにはよい隣家)

が必要となり、たとえ一時的に困窮な境地に陥つたとしても、